

# 京都産業大学

## ことばの科学研究センター

2022年度 第5回研究会

10月19日(水) 15:00~17:00

第二研究室棟会議室および Teams によるオンライン開催  
オンラインによる参加の場合のみ center-lg-studies@cc.kyoto-su.ac.jp メールでお伝えください

加野 まきみ

ことばの科学研究センター 研究センター員・文化学部教授

### 既存語と借用語の使い分け—コーパスで探ることばの変化(2)—

昨年の発表に引き続き、様々なコーパスを使って、英語に借用された語が英語の中でどのような変化を経て英語の語彙として定着していくのか観察した結果をお話しします。今回は、日本語から英語に入った借用語と既存語彙との競合・共存・棲み分けの様子に注目したいと思います。

外国語からの語彙借用という現象は、通常その語が示す概念がその言語になかった、あるいは一語では言い表せなかった場合に起こります。日本語からの借用語には、日本独特の伝統・文化・食物・武道関係の語や、近年ではビジネスやテクノロジー、またアニメの影響を受けた語がありますが、これらの語は借用された後、発音、綴り、形態、品詞、意味などの様々な変化を経て、新しい意味や語法を獲得し、英語として生産性を持った語彙として受け入れられていきます。その変化の過程で、比喩的に用いられ、意味が一般化されたりして、英語に既に存在する語彙と同じ意味を持つようになる語もあります。

例えば、tycoon は、元々日本の「将軍」を指す語として借用されましたが、その後、意味を変化させ、「実業界の巨頭・大富豪」という意味で用いられるようになります。ところが、英語では同じ意味で用いられる語がいくつもあります。magnate はそのひとつです。国や領土の統治者を表す king や lord や、他の言語から借用された権力者を表す語 (mogul, tsar, mandarin etc.) も同じ様に使用されます。また、口語表現では big- で始まる「大物」を表す表現があります (bigwig, big shot, biggie etc.)。コーパスから抽出した用例を用い、これらの語が使用されるジャンルや共起語の種類、語法、指示対象など様々な角度からこれらの語の特徴を分析・比較して、これらの同義語がどのように使い分けられるのかを明らかにします。